

信州ワイド

川上

村長が初の著書出版



農業立村の歩みなどをつづった著書を手にする藤原村長

南佐久郡川上村の藤原忠彦村長(70)は初の著書「平均年収2500万円の農村」(ソリック)を出版した。寒冷な気候を生かした高原野菜栽培による農業立村の歩み、県天然記念物「川上犬」保存の取り組みをつづり、村内に農林業を学ぶ高校を設立する夢も語っている。

七章構成。農業では、高原野菜栽培が広まった歴史を振

り返り、近年の台湾、香港輸出事業なども紹介。〇七年度として村臨時職員になったエピソードや、企画課長時代に村

の高原野菜販売額が約百五十万円で、農家数六百七戸で、営業バス導入に取り組み、ス

「ハングリー精神感じて」

農業立村の歩みつづる

割ると二千五百万円余になり「一流企業にも劣らない収入を得ることも可能」とした。省(当時)に何度も通った苦

農業を継ぐため高校を中退 労も記した。藤原村長は現在

六期目で、県町村会長を務める。

自らが保存会長を務める川上犬については、父親の遺志を継ぎ会を復活させ「村のシンボル」にした取り組みをまとめた。

昨年四月、佐久市出身者が社長の出版企画会社「ソリック」(東京)から執筆の打診があり、同六月から、仕事の合間などに執筆した。

同社によると「年収二千五百万円」というタイトルに驚いた農家からの問い合わせが多いという。藤原村長は「コメが作れない逆境を乗り越えてきた川上村のハングリー精神を感じてほしい」と話している。

四六判、百六十二ページ。千五百円(税別)。佐久市の大阪屋あさま店や、県内の平安堂などで販売している。